

2022 年度事業計画について

絆の会は今、利用者の高齢化や、障害種別の多様化などへの対応が求められており、働く場、住む場、相談、憩いの場で利用者のニーズを大切にしながら取り組んでいる。

2021 年度は「絆の会 5 か年中期事業計画」を踏まえて、「就労系事業所検討会」「グループホームの在り方検討会」「地域活動支援センターの在り方検討会」において、現状の課題に応じた事業内容や今後の方向性について検討を行ってきた。

2 年余り続いているコロナ禍において人との交流や会話の機会が制限される中、就労系事業所の販売イベント、グループホームや地域活動支援センターの小旅行や小規模演奏会のイベント企画など工夫しながら取り組んできた。中でも法人の最大の行事である「絆フェスタ」は、ワクチン接種状況等観ながら、ウイルス感染拡大防止に細心の注意を払って 2 年ぶりに開催し、絆の会 4 本柱の交流、つながりの大切さが確認できた。

研修等は、対面式が減少しオンライン研修が常態化している。海外と結ぶ研修や大会等にも居ながらにして参加でき、所内研修においてもオンラインで行うことで遠方の講師を依頼でき、貴重な学びの時となっている。

2022 年度は、就労系事業所では「信州そば工房きずな」の就労継続支援 A 型事業への可能性、「悠友ハウス」の生活介護を含めた他事業との組み合わせ、「びーんず」と「あんだんて」の営業日を統一することによる一体化した事業展開等、新たな事業形態の検討を引き続き進めていく。グループホームは「リアン若里」の建物の他事業への転換に伴い、新たにグループホームを開設し、職員の仕事内容・配置時間などについては引き続き検討していく。「絆の会相談室」は、閉鎖した「つむぎの家」後への移転により、関係機関や病院と距離的に近くなり連携しやすくなるため、業務の充実を図っていく。「皆神ハウス」は地域活動支援センターとして 1 か所となったことから、事業内容を見直すとともに利便性の良い地域への移転も含めて検討していく。

利用者支援、職員の職場環境については、適正なサービスの提供や適正な職務遂行を確保する観点から障害者虐待の防止、ハラスメントの防止のための対策として、職員への周知、啓発（研修）、相談体制の充実を図っていく。

また、2023 年度は法人化 20 周年を迎える。20 年間を振り返り、絆の会 5 か年中期事業計画を踏まえながら、所長会中心に準備を始めていく。絆の会の理念に謳われている当事者、家族、ボランティア、職員の 4 本柱それぞれの力が集まって発揮される形がそこに見えてくるような 20 周年を目指していく。

昨年から精神医療改革におけるベルギーと日本の違いを職員、家族で学びはじめた。そこから見えてきた日本の長期入院等様々な問題は、精神科特例や民法における家族の扶養義務など国の制度が大きく関わっているということ。また、当事者や家族の力を生かしていないという違い。これらこの国の現状、課題とどう向き合っていくか、精神保健福祉の動向に関心を持ち、全国の関係団体と協力して署名や要望活動などできる取り組みを続けていく。

I 2022年度 法人本部事業計画

1 会議の開催等

(1) 理事会の開催

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 2022年度第1回理事会 | 2022年6月9日(木) |
| ② 2022年度第2回理事会 | 2022年11月17日(木) |
| ③ 2022年度第3回理事会 | 2023年3月16日(木) |

適時理事会開催

(2) 評議員会の開催

2022年度定時評議員会 2022年6月24日(金)

(3) 監事による内部監査 2022年5月28日(土)

(4) 評議員選任・解任委員会

(5) 事業運営のための諸会議

- | | |
|--------------------|------|
| ① 運営会議 | 年3回 |
| ② 責任者会 | 適宜 |
| ③ 経営会議 | 年2回 |
| ④ 所長会 | 年10回 |
| ⑤ 所長・主任会 | 年2回 |
| ⑥ 主任会 | 年数回 |
| ⑦ 全体会 | 年4回 |
| ⑧ 就労B型・就労移行会議 | 年12回 |
| ⑨ グループホーム会(世話人連絡会) | 年12回 |
| ⑩ 相談室スタッフ会 | 年12回 |

(6) 苦情解決担当者・第三者委員等会議 2022年7月15日(金)

苦情解決担当者・第三者委員事業所見学交流会 2022年11月25日(金)

(7) 虐待防止委員会 2022年7月15日(金)

(8) サポーター・家族会合同事業所見学会 2022年10月18日(火)

2 各種委員会・検討会等

(1) 5か年中期事業計画進捗管理委員会

(2) 絆の会サポート委員会

(3) 職員処遇改善検討会

(4) ボランティア委員会

(5) 災害・感染症等対策委員会

(6) グループホーム在り方検討会

(7) 法人化20周年準備会

(8) 絆フェスタ実行委員会

(9) 絆の会ホームページ管理運営委員会

(10) ハートレター絆編集委員会

3 事業一覧

(1) 社会福祉事業

① 多機能型事業

就労移行支援事業	悠友ハウス就労支援センター	定員 6 名
就労定着支援事業	悠友ハウス就労支援センター	
就労継続支援B型事業	悠友ハウス	定員 25 名

② 就労継続支援B型事業

信州そば工房きずな	定員 20 名
びーんず	定員 20 名（主：びーんず 10 名、従：あんだんて 10 名）

③ 共同生活援助事業（グループホーム）

絆の会地域生活センター（4 か所）	定員 25 名
-------------------	---------

④ 短期入所事業

みらいコーポ稲葉	1 床
----------	-----

⑤ 地域活動支援センター

皆神ハウス（Ⅲ型Sタイプ）	定員 20 名
---------------	---------

⑥ 長野市障害者相談支援事業（長野市受託事業）

絆の会相談室

長野市障害者地域移行支援事業（長野市受託事業）
指定特定相談支援事業（計画相談支援）
指定一般相談支援事業（地域相談支援）
自立生活援助事業

(2) 収益事業

絆の会松代温泉駐車場事業	長野市松代温泉 78
--------------	------------

4 職員体制

職員 60 名（正規（一般職員）19 名、嘱託等 41 名）

うち、統括施設長	1 名
統括管理者	3 名
所長	6 名
事務長	1 名
主任	6 名

5 職員研修計画

(1) 内部研修会

新任職員研修（3 年未満職員対象）	4 回
職員スキルアップ研修（職員全員対象）	2 回
各種研修報告	適宜
パワーハラスメント、メンタルヘルス研修	1 回

(2) 事例検討会

就労部門と地域・生活部門の 2 グループに分け各 4 回実施
外部参加者：精神科医師・精神科ソーシャルワーカー、ケース関係者等

(3) 外部研修（県内外各種研修会）への参加

相談支援従事者研修、サービス管理責任者研修、ジョブコーチ研修、管理者研修

OJTリーダー研修、中堅職員研修、新任職員研修、きょうされん関係研修
障害者虐待防止研修、ほか

- (4) 当法人主催の研修会
長野市地域移行支援関係者研修会

6 当事者・家族・ボランティア活動への支援

- (1) 当事者活動への支援

ひまわりの会への支援

絆の会各事業所のメンバー会及び自主活動（スポーツ・合唱等）

障害者スポーツ大会（地区予選）への参加及び練習（毎週水曜日）

第22回全国障害者スポーツ大会北信越・東海ブロック予選会バレーボール競技（精神障害者の部）

- (2) 家族会活動への支援

家族教室の開催や総会・研修会

各事業所の家族会定例会

- (3) ボランティア体制の充実と活性化への支援

絆の会ボランティア委員会による自主的活動（交流会・研修会）支援

精神保健福祉ボランティア養成講座の開催

「絆カフェ」支援

7 広報・普及活動等

絆フェスタの開催

「きょうされん映画」上映会

パンフレットの充実

ホームページによる発信

会報「ハートレター絆」の発行 年5回

8 障害者の地域生活向上に向けた取組

他団体や関係機関等との連携及び協同

長野市障害ふくしネット（長野市自立支援協議会）への参加

ポプラの会との協同

障害者福祉推進のための諸活動への参加

Ⅱ－1 2022年度 多機能型事業所（就労移行支援・就労定着支援・就労継続支援B型）事業計画

（1）悠友ハウス就労支援センター（就労移行支援）

所在地	長野市若里3-14-23	TEL/FAX	026-219-5131/026-219-4701
定員	6名	開設時間	月～金（9:00～17:00）

1 2022年度に向けて

2021年度は、5名が就職（新規利用者5名）。企業先での作業を1件増やし、働く体験をより多く積めるようにした。企業見学・実習に取り組み、就職につながるよう支援した。

2022年度は、事業所の特徴を明確化し、事業内容を整理していく。就職後の孤立を防ぐために仲間同士やボランティアとの交流の場を今から作っていく。利用者の就職支援とともに、地域の方などを対象に公開講座を実施し、活動の周知と新規利用者の受け入れにつなげていく。

2 目標と取り組みについて

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① プログラム内容の見直しと余暇の充実 ② 個別支援の充実 ③ 利用者増に向けた取り組み ④ 職員の資質の向上
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 特徴がわかりやすい事業所を目指し、そのために企業先での作業を中心としたプログラムの実施、自身の職業適性の気づきや評価の場としてワークサンプルを取り入れ、所内で模擬的な職業体験ができる環境を整える。その他、利用者とボランティアの交流、就職した卒業生が気軽に立ち寄れる場所を作る。 ② 個別支援計画に沿って、一人ひとりが計画的に就職に向かっていけるよう利用者の特性や意向に沿った見学・実習先を開拓していく。また定期面談を通してその都度目標と課題の振り返りをしていく。 ③ 地域の方や関係機関も対象とした公開講座を定期的で開催し、活動の周知と新規利用者の受け入れを目指す。また活動周知の手段としてSNSの活用もあわせて検討していく。その他、絆の会就労支援チームと連携し、当法人B型事業所に向けても情報の発信をしていく。 ④ 積極的に外部の研修に参加し、また日々の相談や報告、スタッフ会での事例検討を通して、利用者支援の方向性を共有していく。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 生産活動 封緘作業、菓子袋詰め ■ プログラム 座学、SST、自習学習（PC活用）、公開講座（5、6、7、9、10、1、2月を予定）、企業見学、実習 ■ 余暇 ボランティアとの活動（太極拳等）、OB/OG会 ■ その他 ①メンバー会（月1回） ②当事者会（ひまわりの会） ③合唱（月2回） ④スポーツ（ソフトバレー）、避難・防災訓練（年1回）、研修会等参加（随時）

(2) 悠友ハウス就労支援センター（就労定着支援）

所在地	長野市若里3-14-23	TEL/FAX	026-219-5131/026-219-4701
定員	20名	開設時間	月～金（9:00～17:00）

1 2022年度に向けて

2021年度は16名が定着支援を利用（内5名がサービス終了）した。体調が安定しない利用者には職場訪問、勤務調整などを行い、継続して働き続けられるよう支援した。一方でサービス終了後の一人ひとりに合った相談の場、職場以外の居場所作りの確保に課題を残した。

2022年度は、利用者一人ひとりに対してサービスの終了を見据え、関係機関への丁寧な引継ぎを行っていく。企業には迅速な対応を心掛け、長期欠勤となった利用者には、企業とも相談しながら必要な支援を検討、実施していく。

2 目標と取り組みについて

重点目標	① サービス終了を見据えた支援の実施と企業との関係構築 ② 個別支援の充実 ③ 利用者増の取り組み
目標に向けた取り組み	① サービスの終了時には関係機関への引継ぎとともに、一人ひとりに合った相談の場、職場以外の居場所作りを意識して支援する。企業に対しては良好な関係が維持できるように、引き続き迅速な対応を心掛ける。 ② 長期欠勤となった利用者には休んでいる期間に、復帰に向けてどのような支援ができるかを考え企業とも相談しながら支援していく。またOB・OG会を定期的に開催し、就職者が気軽に寄れる事業所を目指す。 ③ 当法人B型事業所からの就職者に対して、就労支援チームと連携しながらスムーズに就労定着支援に移行できるよう支援する。

(3) 悠友ハウス（就労継続支援B型）

所在地	長野市若里3-14-23	TEL/FAX	026-219-5131/026-219-4701
定員	25名	開設時間	月～金（9:00～17:00）

1 2022年度に向けて

2021年度は、コロナ禍で軽作業の作業量が減るなか、取引先を一件増やし、他事業で使う防護服を作成することで作業量を確保した。利用者に対してはこれまで従事したことのない作業を経験する機会を積極的に設けたことでモチベーションと自信につながった。

2022年度は、各事業で作業工程の細分化や新たな作業を作り出すことで一人ひとりの特性に合った作業を充実させ、より多くの利用者が参加できるようにしていく。また「見える化」の継続やメンバー会への参加を呼びかけることで利用者の主体性を大切にし、自己決定の場を増やしていく。その他、日々の困りごとを職員間で相談できる環境を作ることで資質向上を目指す。

2 各施設事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者の特性に合った作業の充実 ② 利用者の主体性を大切にしたい取り組みと個別支援 ③ 就労移行との連携 ④ 職員の資質向上
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 軽作業は安定した作業量を確保するため、新たな取引先の検討と落ち着いて作業ができるように作業室のレイアウトを変えていく。またより多くの利用者が作業に参加できるようにアウトワークでは地域（若里地区）の草取り作業などの開拓、販売では Kizuna Shop での店頭販売の実施、その他事業ごと作業工程の細分化を行う。その他、自主製品の開発に向けて利用者に声をかけ、一人ひとりに役割を担ってもらいながら試作から販売まで目指していく。 ② 利用者の主体性を大切にするために、作業資材の置き場所がわかるように写真で示し、映像を用いた作業マニュアルを作るなど引き続き見える化を行い、自分で考えて行動に移せる環境を作っていく。メンバー会の開催を午後から午前へ変更し、多くの利用者が参加できるように取り組み、一人ひとりの意志表示や自己決定の場としていく。 ③ 就職希望者に対して悠友ハウス就労支援センターの公開講座参加や各プログラムの見学体験を呼びかけ、計画的な就労移行への移行を目指していく。 ④ 日々の困り事についてその都度職員間で話し合える時間を確保し、皆で共有していく。スタッフ会での所内事例検討会を引き続き継続し、支援の振り返りを行う。また職員が仕事に対してやりがいを持って楽しく仕事をするためにはどんなことが考えられるのかを検討していく。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 作業 箱折り、発送作業、ゼリー詰め、清掃、ポスティング、印刷事業、販売事業（出張販売・Kizuna Shop）、アウトワーク事業（草取り・キノコ紙巻・燻炭製造など） ■ 行事 お花見、暑気払い、忘年会、新年会等 ■ その他 ①メンバー会（月1回） ②合唱（月2回） ③スポーツ（ソフトバレー） ④避難・防災訓練（年2回） ⑤研修会等参加（随時）
作業種別 目標工賃	<p>時給 軽作業 110 円、アウトワーク 550 円、清掃 650 円、販売 200 円、印刷 150 円</p> <p>平均月額 9,500 円、最高月額 50,000 円</p>

II-2 2022年度 就労継続支援B型事業計画

(1) 信州そば工房きずな

所在地	長野市柳原 659-1	TEL/FAX	026-263-9788/026-217-5220
定員	20名	開設時間	月～金（8：45～16：30）

1 2022年度に向けて

2021年度もコロナ禍の影響により麺の売上げが減少したが、新規の取引先を増やし、自主販売に予約注文を加えて工賃維持に努めた。新規利用者に対しては一部送迎を開始し、行いやすい軽作業を進めて定着を図った。また、事故の再発防止に向けては危険箇所へ案内を増やし、機械点検の充実などに努めた。

2022年度は、以前からの課題である一日を通して働ける時間の確保や売上アップに努め、工賃向上を図る。また、今後の事業展開についても併せ検討していく。作業については、製造販売の体制や施設外作業の見直しを行い、利用者一人ひとりが意欲を持ちながら安定して通所できる環境を整えていく。一方で、研修への積極的な参加と学習の共有、また情報の共有を行いチームで支援していく。

2 各施設事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 生産活動の充実 ② 今後の事業展開についての検討 ③ 利用者増と定着 ④ 職員の連携と資質の向上 ⑤ 地域との関りを進展させる
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 麺の製造販売において、既存の商品の包装を含めた見直しと新商品の開発を行い、これまで以上にお客様から愛される商品創りを進めていく。機械を効率的に活用して生産力を向上させ、一日を通した作業量を確保する。製造環境を整え生産量を増やし、2021年度に下がった平均工賃を向上させる。自主販売では対面以外の販売方法を探り、また、安定した軽作業の確保と施設外作業の精査や見直しに取り組んでいく。 ② A型事業を含めた今後の事業展開について、関係者と話し合いながら検討を重ね、特色ある事業所を目指す。 ③ 関係機関への広報活動を継続し、事業所の周知に努める。また、今年度から送迎サービスを定期的に行うとともに、現在の利用者に対しても冬場など通所しづらい時期の送迎など、きめ細かい支援を継続して定着を図っていく。 ④ 所内の事例検討での意見交換を活発化させ、利用者の目標や特性に応じた支援を行っていく。また、オンライン等の研修へ積極的に参加し、所内で学習を共有することで職員の資質向上を目指していく。 ⑤ コロナ禍でも工夫を凝らして関係を深め（麺類の定期お届け、地元企業との仕事の連携など）、地域に欠かせない事業所に成長していく。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 作業 麺類の製造と納品、自主販売、施設外就労（援農他）、軽作業（そば茶のパック詰めやシール貼り等） ■ 行事 お花見、暑気払い、新年会、レクリエーション等

	■ その他 ①メンバー会（月1回） ②工場又は施設見学（年1回） ③避難・防災訓練（年2回） ④研修会等参加（随時）
作業種別	時給 製造 600円、援農 400円、軽作業 250円
目標工賃	平均月額 30,000円、最高月額 85,000円

(2) -1 びーんず

所在地	長野市篠ノ井御幣川 1233-1	TEL/FAX	026-214-5446/026-214-5449
定員	10名	開設時間	月～金（8：45～16：30）

1 2022年度に向けて

2021年度も軽作業においてコロナ禍の影響が大きく、対応に苦慮した。菓子作業は卸先から安定した受注をいただくことができたこと、店舗の認知度が向上したことにより大幅に工賃時給を上げることができた。コロナ禍により利用者同士の交流が希薄になってしまっており、従事している作業によって関わりが限定されてしまうことが課題である。

2022年度は利用者、職員共に活躍の場を広げられるよう取り組む。作業面においては利用者の視点を活かした働きやすい環境づくりを進めると共に、スキルアップの機会の充実にも取り組む。作業以外の活躍の場をつくり、利用者同士の交流を促進する。職員については、引き続きスタッフ会を活用した意見交換や事例検討を行うなど支援力の向上を目指す。利用者個々の利用目的や目標、特性・強みを共有し、それを踏まえた支援を提供できるよう努める。

2 各施設事業計画

重点目標	① 利用者の活躍の場づくり ② 工賃アップに向けた取り組み ③ 利用者増と定着 ④ 個別支援の充実と職員の資質の向上
目標に向けた取り組み	① 引き続き、作業グループごとのメンバー会でマニュアルの作成・見直しや利用者の目線を活かした見える化に取り組むことで、働きやすい環境づくりをさらに進める。また、練習会の企画、映像資料を用意するなどスキルアップの機会を充実させる。作業以外の活躍の場として、小規模なイベントを利用者と共に企画し、利用者同士の交流を促進する。 ② 菓子作業は、地域の新聞店企画のクーポンを計画的に実施し、引き続き地域における認知度アップに努める。さらに週末の販路確保に取り組み、ロスの削減に努める。メニュー表の整備や詰め合わせギフトなどのパッケージ商品の設定を行い、お客様のニーズに応じていく。季節に応じた商品企画、キャンペーンを実施し、お客様を飽きさせない工夫を行う。軽作業については、OGTとの区分を整理し、作業には効率的に取り組むことで工賃を維持する。新規の作業を積極的に取り入れ、安定した作業量・収入の確保に取り組む。 ③ 新規利用者獲得については、相談員への情報発信を充実させる。既存の利用者に対しては、丁寧な面談、対応を継続し、利用日数増、通所の安定を図る。見学・体験者はできる限り、積極的に受け入れを行う。 ④ 利用者個々の利用目的や目標、特性を踏まえた支援ができるよう、職員間の情報

	共有の仕組みづくりを行う。支援について意見交換や事例検討は、スタッフ会内だけでなく、関わりの深い職員数人でおこなったり、テーマをしぼっておこなったりと工夫し内容を深める。適宜、オンラインを活用し、積極的に研修参加をする。特に、短時間職員の研修機会を確保できるよう努める。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 作業 菓子の製造、販売（定期販売やイベント販売への参加）、軽作業（ゼリーの筒詰め、果実のネット折り作業等）、自主製品作り（紙袋作り等） ■ その他 ①メンバー会（月1回） ②合唱（月2回） ③スポーツ（ソフトバレー） ④避難・防災訓練（年2回） ⑤研修会等参加（随時）
作業種別	時給 菓子 570 円、軽作業 150 円、販売 300 円
目標工賃	平均月額 15,000 円、最高月額 48,000 円

(2) -2 あんだんて

所在地	長野市篠ノ井布施高田 823	TEL・FAX	026-213-6122
定員	10 名	開設時間	月～金（8：45～16：30）

1 2022 年度に向けて

2021 年度もコロナ禍の影響が大きかったが、各種食事券事業を活用しながら、可能な限り弁当や惣菜の注文に応えることで作業量の確保、収入の維持に取り組んだ。また、地域において、弁当・惣菜製造のお店として認知度も少しずつ高まったことで、安定した収入に繋がり、工賃時給を上げることができた。

2022 年度は、開所日をびーんずと統一して月曜日から金曜日に変更することで、連携しやすい環境を整える。また、あんだんて内でも作業種目の枠を越えて一体的に事業に取り組みながら、今後の事業展開について検討を行う。利用者にとっても活躍できる場となるよう、十分に力が発揮される環境の整備を進めるとともに、力を伸ばす支援を提供できるよう努める。

2 各施設事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 今後の事業展開についての検討 ② 利用者のスキルアップに対する支援の強化 ③ 地域に愛されるお店づくり ④ 職員の連携と資質の向上 ⑤ 衛生管理の徹底
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 開所日を統一し、作業種目の枠を越えて事業に取り組む、一体的に今後の事業展開についての検討を行う。利用者が力を発揮しやすい作業か、限られたスペースをいかに有効活用できるか（改築の必要性があるのかも含めて）、今後も無理なく継続できる事業なのか、などの視点から総合的に検討を行う。適宜、利用者の声を集めながら、通って来たいと思える魅力ある事業所づくりを進める。 ② 今後を見据え、新しく弁当作業・接客に携わる利用者を育てる。引き続き、マニュアル作成などの見える化を行い、利用者の力を伸ばす環境づくりを行う。講習会や練習会を企画し、実践を交えながら楽しくスキルアップできるよう工夫する。施設外作業やワゴンカフェ販売においては、評価表の整備や見直しを行い、利用者個々が前向きにスキルアップに取り組めるようにする。

	<p>③ 継続して地域のニーズに対応していくことで地域に愛されるお店を目指す。弁当や惣菜を製造しているお店としての認知度を高めるためPRを行う。具体的には、小規模なイベントの開催、惣菜特売日の設定、軽食については特色のある献立の事前予告などを篠ノ井地区でチラシを配布して周知する。</p> <p>④ 作業種目の枠を越えて情報共有、作業の連携を行う。特に短時間職員との情報共有を意識する。利用者個々の利用目的や課題、特性について職員間で共有を行い、個別支援を強化できるよう努める。法人内の研修やスタッフ会、オンライン研修などを活用しながら、短時間職員の研修機会を作り出す。</p> <p>⑤ 感染症対策と HACCP の考え方を取り入れた衛生管理を継続して行う。利用者も含めて適宜勉強会を持ち、正しい知識や方法の取得を目指す。</p>
活動内容	<p>■ 作業 軽食事業及び弁当惣菜製造、販売（定期販売やイベント販売への参加）、施設外就労（大日本法令印刷での封緘・検品作業）、ワゴンカフェ</p> <p>■ その他 ①メンバー会（月1回） ②合唱（月2回） ③スポーツ（ソフトバレー） ④避難・防災訓練（年2回） ⑤研修会等参加（随時）</p>
作業種別 目標工賃	<p>時給 軽食 420 円、弁当 450 円、施設外就労 400 円、販売 300 円</p> <p>平均月額 15,000 円、最高月額 45,000 円</p>

Ⅲ 2022年度 共同生活援助事業計画

2021年度は、介護施設への移行や一人暮らしを始めた人、絆の会グループホーム内で転居した人等各グループホームとも変化の大きい一年だった。課題となっていた服薬管理では薬ポケットを見える場所に置くことで週末、祝日の巡回職員も確認や声かけを行うことができた。

2022年度は、絆の会5か年中期事業計画に沿って、老朽化し住居には適さなくなったリアン若里に変わる新たなグループホームを開設する。リアン若里の他事業への転換や職員の仕事、役割分担・配置時間などグループホームの在り方については引き続き検討していく。また、みらいコーポ稲葉では高齢利用者の受け入れを重点的に行ってきたが、利用者の介護保険への移行は高齢になるほど難しいことが分かり、今後障害の特性により居住支援の必要な利用者も受け入れていく。

(1) セルフィー平林（定員6名） 長野市平林1丁目16-21 TEL/FAX 026-215-8007

1 2022年度に向けて

2021年度は、7月に1名が退所し一人暮らしを開始、1月に1名が入居。一人暮らしに近い環境のなかで安心した生活を送るため各個人の目標に向けて支援してきたが、相談支援専門員との連携には課題が残った。

2022年度は、メンバー会を用いて利用者同士のコミュニケーションを図り、お互いの意見を共有する時間を充実させていく。個別支援計画の目的に沿って学ぶ機会や必要な人にはボランティアを含めた具体的な支援を行っていく。

2 各施設事業計画

重点目標	① 個別支援計画に沿った支援 ② メンバー会の充実（学習会を含む）
目標に向けた取り組み	① ケア会議やモニタリング時、個別支援計画・サービス等利用計画を共有。 ② 関心の寄せやすいテーマについて学ぶ機会を設けていく。
活動内容	■ メンバー会（月1回）テーマを設け、コミュニケーションを図る 服薬・栄養学習 ■ 行事 グループホーム合同行事（暑気払い・新年会等） ■ ひまわりの会（当事者会）、ボランティア受け入れ、避難・防災訓練（年2回）

(2) リアン若里（定員7名） 長野市若里4-5-28 TEL/FAX 026-227-0498

1 2022年度に向けて

2021年度は、一人暮らしを始めた利用者が1名おり、新しい入居者2名を迎えた。コロナ禍で食事中の会話が無くなり、コミュニケーションをとることが難しくなっている。建物の老朽化に伴い今後閉鎖していく方向となり、法人内のグループホームに3名が転居した。

2022年度は「リアン若里」の閉鎖に伴い、利用者2名が一人暮らしを目指す。他の3名は新たに開設するグループホームへ転居する予定であるが、転居に際しては家族、相談支援専門員とも情報を共有し、連携しながら進めていく。生活の場の変化に伴い、きめ細かな支援を心がけていく。

2 各施設事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 個別支援計画に基づいた支援 ② 生活のリズムを整え、服薬の必要性を再確認する ③ 自分に合った新しい生活環境作り
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 定期的な面談を行い、自分の希望、夢の実現に向け一緒に関わり支援する。 ② 職員、看護職員と一緒に服薬及び運動などの工夫について学ぶ。 ③ 新しい生活場所での上手な自己主張、よりよい人間関係を習得する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ メンバー会（月1回） ■ 行事 グループホーム内での花見・食事会等、グループホーム合同行事（暑気払い・新年会等）、地域行事への参加 ■ 畑作業、ひまわりの会（当事者会）、ボランティア受け入れ、避難・防災訓練（年2回）

(3) クレール篠ノ井（定員5名） 長野市篠ノ井布施高田 1032-8 TEL/FAX 026-292-0664

1 2022年度に向けて

2021年度は、早番職員の配置により利用者が安心して通所先に通えるようになった。一方、利用者の高齢化により、グループホームでの生活が困難になってくる利用者も出てきた。コロナ禍にあっても警戒レベルが下がった秋には、日帰り旅行に行くことができ、貴重な余暇活動となった。

2022年度は、高齢の利用者については今後の生活をイメージし、新たな生活の場について考えていけるよう、介護施設等の見学を計画する。また、発言・発表の機会として研修報告をするなどメンバー会を工夫し、健康維持のために楽しめる散歩など日常的な余暇活動も取り入れていく。

2 各施設事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 個別支援計画に基づき安定した生活を送れるよう支援する ② 健康のための生活習慣作りを継続する ③ コロナ禍でも様々なことを学び、コミュニケーション力を養う
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 生活の困りごとや希望を聞き、職員間や相談支援専門員と課題を共有し、連携して支援する。介護施設見学を行った利用者には本人のニーズに沿って、家族も交えて話し合う。 ② 看護職員と連携し、健康維持のための集団・個人での運動及び食生活等生活習慣づくりを計画する。ゲーム感覚の散歩等ストレスと運動不足の解消に努める。服薬は定期的に確認し、必要に応じ同行受診等医療機関と連携し、支援していく。 ③ メンバー会でそれぞれが学んだことを話す機会を設け、共有する。希望を取り入れた行事を実施する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ メンバー会（月1回） ■ 行事 グループホーム内での季節行事、誕生日会、お散歩ビンゴ、グループホーム合同行事（暑気払い・新年会等）、地域行事への参加 ■ ひまわりの会（当事者会）、ボランティア受け入れ（ハンドマッサージ）、避難・防災訓練（年2回）

(4) みらいコーポ稲葉 (定員 7 名) 長野市稲葉 689 TEL/FAX 026-214-7331

1 2022 年度に向けて

2021 年度は、利用者の高齢化に伴う内科的疾患や身体機能の低下などから介護施設等の見学や検討を重ねてきた利用者 2 名が移行し、新たに 40 代 50 代 2 名が入居した。昨年に続き新型コロナウイルス感染拡大防止から外出を伴うレクリエーションは行えなかったが限られた環境、時間の中で工夫して親睦を深めた。要望を受けて開始した短時間職員の勉強会は回を重ねるごとに内容も深まり、支援の向上につながった。

2022 年度は、高齢に伴う身体機能の低下が目立つ利用者には引き続き医療機関等と連携をとりながら体調管理、フレイル予防を行い、新しい利用者ともよいコミュニケーションが取れるようきめ細かな支援を行う。ボランティア等の協力を得ながら関心のあること、夢の実現など日常生活の充実を図っていく。短時間職員の勉強会は他の職員にも広げ、引き続き行っていく。

2 各施設事業計画

重点目標	① 日中活動・余暇活動の充実 ② お互いを思いやることのできる生活の場を支援 ③ 関係機関との連携、家族との情報共有 ④ 職員の知識・支援技術の向上 ⑤ 参加者が楽しめる余暇活動の充実
目標に向けた取り組み	① 身体機能を低下させないため、生活を楽しみ、希望が持てるよう日中活動を支援する。 ② 誰もが行きやすい役割分担、意見やアイデアの出しやすい環境、場所を整えていく。メンバー会の活用。 ③ 高齢化に伴い介護的支援が必要な利用者に対しては入居者の思いを第一に考えながら今後に向けた関係機関、家族等との連携を進めていく。 ④ 短時間職員勉強会の継続。 ⑤ 入居者の希望をボランティアなどの協力のもと行う。
活動内容	■ メンバー会 (月 1 回) ■ 行事 グループホーム内での季節行事 (クリスマス会など)、誕生日会、グループホーム合同行事 (暑気払い・新年会) ■ ひまわりの会 (当事者会)、体操プログラム、ボランティア受け入れ、避難・防災訓練 (年 2 回)

IV 2022年度 短期入所事業計画

みらいコーポ稲葉 (1床) 長野市稲葉 689 TEL/FAX 026-214-7331

1 2022年度に向けて

2021年度は、新型コロナ感染が拡大する中、感染予防対策を徹底したうえで受け入れを行い、利用目的等を職員間で共有し、安心して利用できるよう努めた。

2022年度は、利用者が安心して過ごせるよう、引き続き感染予防対策を徹底して受け入れを行う。また、利用目的や目標など利用者に関する情報を職員間で共有し、方向性を確認しながら支援していく。自立を希望する人など利用の必要な人に情報が届くよう空き情報を相談支援事業所へ積極的に情報提供すると共に法人内の就労系事業所へも知らせていく。絆の会ホームページ内にある「ショートステイ予約確認カレンダー」の活用についても周知していく。

2 各施設事業計画

重点目標	① 利用者の基本情報・利用目的を職員間で共有して支援する ② 入居者との交流を図り、安心して過ごせる配慮する
目標に向けた取り組み	① サービス等利用計画を把握し、職員間で共有する。 利用開始時に目標・計画の確認し、退所時には振り返りを行なう。 職員間での申し送り事項の徹底。 ② 入居者やボランティアとの交流を図りながら、過ごしやすい場所を提供できるよう必要に応じて支援する。
活動内容	■ メンバー会 (月1回) ■ 行事 グループホーム内での季節行事 (クリスマス会など)、誕生日会、グループホーム合同行事 (暑気払い・新年会) ■ ひまわりの会 (当事者会)、体操プログラム、ボランティア受け入れ、避難・防災訓練 (年2回)

V 2022年度 地域活動支援センター事業計画

皆神ハウス

所在地	長野市皆神台 157	TEL/FAX	026-278-7466/026-285-0579
定員	20名	開設時間	月・火・木・金・土(9:30~17:00)

1 2022年度に向けて

2021年度は、新型コロナウイルスの感染の影響により利用人数は減少傾向となったが、電話相談などの個別相談の件数は多かった。日々の活動ではコロナの影響により行事・プログラムの中止や内容変更などの状況が続いたが、家族茶話会や皆神祭、ミニコンサートなどは実施することができた。また実施できたプログラムからボランティアとしてつながった方もおられた。

2022年度は、つむぎの家を利用していた人など新規の利用者も増える可能性があるため、利用者一人ひとりの特性や目標、課題などを明確にし、目的に沿った支援を提供できるよう支援の質の向上を目指す。また利用者同士やボランティア、地域住民が関わる機会を増やし、関わりの中から学びあえる環境をつくる。さらにピア活動やグループ活動を充実させて体験発表ができる人材を育てる。

一方で利便性や建物の老朽化等の課題もあるため、「皆神ハウス事業展開検討会」を開催し、長野市の動向も踏まえ、利便性の良い場所への移転や新たな事業についても検討していく。

2 各施設事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの目的に沿った支援の提供 ② ピア活動とグループ活動の充実。体験発表ができる人材を育てる ③ 社会参加、役に立つ経験、活動の場の実現 ④ 利便性のよい場所への移転及び他事業との併設についての検討
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ① 面談等により把握した利用者の特性、利用目的、ニーズ、課題など共有すべき事柄を支援状況確認シートに記入する。スタッフ会等を活用しシートの内容を共有する。また利用者の特性に合わせた個別支援を行いながら、利用者相互や職員、ボランティア、地域住民との関わりから利用者自身が学べる機会をつくる。 ② 自身の体験を発表できる人材を育てるとともに地域のお茶の間サロンのほかにも積極的に働きかけ体験発表の場を開拓する。ピアカウンセリングなどのグループ活動については誰もが気軽に入ることができる雰囲気や環境を作る。 ③ 従来のプログラムに加えコロナ禍においても安心して活動ができるプログラムを考案し、地域の方やボランティアの協力を得て行い、社会活動の場を広げる。 ④ 引き続き「皆神ハウス事業展開検討会」を開催し、利便性のよい場所への移転、他事業との併設等を検討する。
会議等	<p>松代・若穂地域福祉関係者連絡会（年2回）</p> <p>松代地区民生児童委員定例会（月1回）</p> <p>長野市障害ふくしネット(かつどう部会)への参加</p>

<p>活動内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 就労準備支援（喫茶コーナー、創作活動） ■ 地域交流行事（ミニコンサート、作品展示、ギャラリートーク、健康体操） ■ プログラム（ピアカウンセリング、コラージュ、昼食作り、家族茶話会、手芸、散策、手しごとカフェなど） ■ 生活支援講座（市等の出前講座等を活用しシリーズ化） ■ 避難・防災訓練（年2回） ■ 行事 お花見、デイキャンプ、ハイキング ■ その他 ①当事者会（ひまわりの会）参加 ②合唱参加（月2回） ③スポーツ参加（ソフトバレー） ④家族定例会（年1回） ⑤家族向け学習会（年1回） ⑥研修会等参加（随時） ⑦実習生受け入れ ⑧松代地域福祉関係者連絡会 ⑨皆神台地区との交流会 ⑩お茶の間サロン等での地域との交流（利用者の特技や体験発表も兼ねる） ■ メンバー会主催 メンバー会（月1回）、暑気払い・忘新年会、カラオケ
-------------	---

VI 2022年度相談支援事業計画

絆の会相談室

所在地	長野市大字稲葉 15-7
TEL/FAX	新電話番号 026-217-6637/026-213-6444
開設時間	月～金（8：45～17：30）

2021年度に絆の会相談室の移転について利便性、経営面等から検討し、2022年度は相談室をつむぎの家の建物に移転、主任相談支援専門員を配置することで計画相談の質の向上を図るとともに、適切な件数を検討しながら実施する。

【計画相談支援・地域相談支援事業】

1 2022年度に向けて

2021年度、計画相談支援は相談支援専門員を増員して育成を図った。兼務の職員とは情報共有、相談が直ぐにできないこと等に課題が残った。地域移行支援は困難ケースを担うため、多くの時間と手厚い支援が求められた。2月にはコロナ感染が拡大したため、精神科病院への訪問ができなかった。地域定着支援は、実人数9人の支援を行った。

2022年度、計画相談支援は主任相談支援専門員による丁寧な指導育成により、相談支援専門員の専門性を高め、利用者の希望に沿った支援を行う。そのために各事業所と緊密に連携して実施する。

地域移行支援は、地域移行コーディネートセンター、精神科病院と連携し、それぞれの状況に応じた丁寧な支援を進めていく。地域定着支援は、退院した方や一人暮らしの人が安定した地域生活を継続していくことができるよう支援していく。

2 活動内容及び会議等

- ① 障害当事者及び家族、関係者等からの相談（電話・来所）・訪問・同行等の支援及び情報提供
- ② 計画相談支援、地域移行支援計画、地域定着支援台帳の作成
- ③ 長野市障害ふくしネット、指定事業所連絡会（隔月）、研修に参加

【自立生活援助事業】

1 2022年度に向けて

2021年5月より事業を開始。新規事業のため利用者は法人の相談支援専門員からの依頼者だけであった。

2022年度は、地域移行で単身アパート生活を始めた人、家族の入院等により生活面に困難が生じた人等の生活不安解消や問題解決へ向け支援していくために、事業について外部へも周知し積極的に情報提供を行っていく。

2 活動内容及び会議等

- ① 利用者への定期訪問により、安定した地域生活を送れるよう支援していく
- ② 相談支援専門員との連携を密にし、支援の方向性を共有し、自立生活援助計画の作成する
- ③ ケア会議への出席等

【長野市障害者相談支援事業・南部障害者相談支援センター】開設時間 月～金（8：30～17：15）

1 2022年度に向けて

2021年は長野市が北部障害者相談支援センターも設置したことにより、市内南北に相談窓口が整った。月2回南北の合同会議を行い、情報交換、課題の共有を図り、連携した活動を行ってきた。

2022年度は個別の相談を受けるだけに留まらず、民生児童委員や関係する機関との情報交換を密にし、地域課題を明確化させ、長野市障害ふくしネットに提言していく。相談支援専門員のバックアップを強化するために巡回、相談支援事業所連絡会の内容の充実を図る。引き続き北部障害者相談支援センターと連携し、活動を進めていく。

2 活動内容及び会議

- ① 障害当事者及び家族、関係者等からの相談(電話・来所)訪問・同行等の支援及び情報提供
- ② 障害福祉サービスが円滑に利用できるよう、相談支援専門員の活動を支援していく
- ③ 様々な課題を抱えている人及びその家族等を、地域関係者と包括的に支援する
- ④ 会議等への参加

南北の合同会議、長野市障害ふくしネット

【長野市障害者地域移行支援コーディネートセンター】

1 2022年度に向けて

2021年度は精神科病院や保健センター、障害者相談支援センターからの地域移行に関する相談を受け、指定一般相談事業所と連携し、地域移行支援の推進を図った。コロナ感染予防の為、Webでの会議が多く、巡回の機会が少なかった。

2022年度は、障害者の地域移行を促進するため、自立支援協議会、精神科病院、その他関係機関との更なる連携を図る。圏域の自立支援協議会に参加し現状、課題を共有し、課題解決に向けた取り組みをしていく。また、ピアサポーターの育成とともに、活動する場の開拓に向け、精神科病院に働きかけていく。

2 活動内容及び会議

- ① 精神科病院を訪問し事業への理解を得ていくとともに、地域の社会資源等の情報提供を行う
- ② 地域移行、地域定着を推進するための普及啓発活動を行う（地域移行研修会の開催等）
- ③ 会議等への参加

ケアマネ連絡会・地域でいこう委員会（長野市障害ふくしネット）

須高地域・北部地域自立支援協議会、長野圏域障がい者総合支援センター連絡会議

以上の4事業の他、障害支援区分認定調査を法人及び他事業所職員とともに引き続き実施していく。